

2025年度 決算説明会

有機合成で暮らしと環境にイノベーションを

TAOKA 田岡化学工業株式会社

取締役社長 岩崎 明

2026年5月26日

目次

1 会社概要-----P.03

2 2025年度決算概要-----P.04

3 2026年度見通し-----P.09

1. 会社概要

| | |
|------|---|
| 社名 | 田岡化学工業株式会社 |
| 創業 | 1919年04月 |
| 設立 | 1934年10月 |
| 資本金 | 1,572百万円 |
| 従業員数 | 単体：412名 連結：482名(2026年3月末) |
| 事業内容 | 化学工業、受託分析 |
| 事業所 | 本社・淀川工場 播磨工場(播磨地区、愛媛地区) 東京支店 |
| 関係会社 | 国内4社 海外3社(インド・シンガポール・中国) うち 連結3社 非連結3社 持分法非適用1社 |



2. 2025年度決算概要

(単位:百万円)

| | 2024年度 | 2025年度 | 増減 |
|-------------|--------|--------|---------|
| 売上高 | 29,930 | 33,192 | 3,262 |
| 営業利益 | 1,887 | 2,046 | 159 |
| 経常利益 | 1,964 | 2,096 | 132 |
| 当期純利益 | 1,478 | 1,533 | 55 |
| 為替レート(円/\$) | 152.57 | 151.09 | △1.48 |
| ナフサ価格(円/KL) | 75,700 | 65,200 | △10,500 |

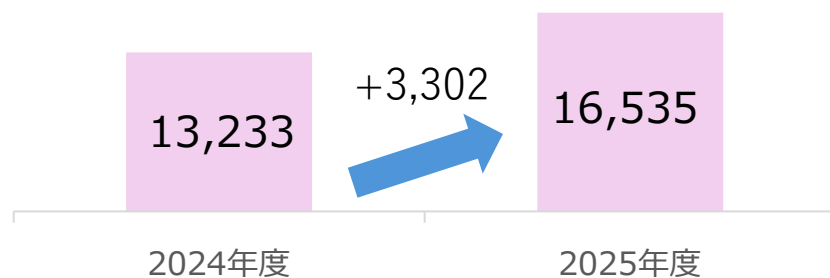
売上高 樹脂原料の出荷増加が寄与

利益面 償却費(新多目的プラント稼働開始)や労務費の増加ならびに交易条件悪化も、樹脂原料を中心に出荷数量が大きく増加

事業別売上高前期対比

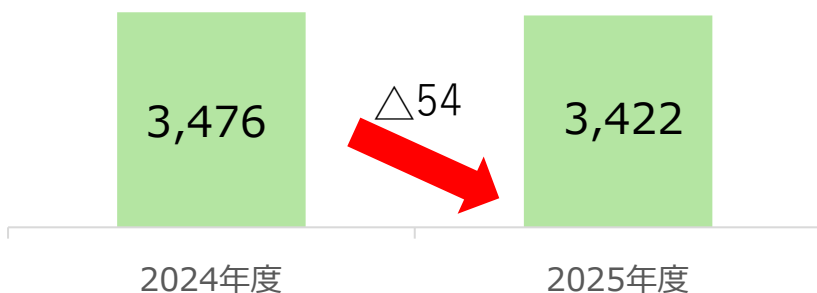
(単位:百万円)

精密化学品事業



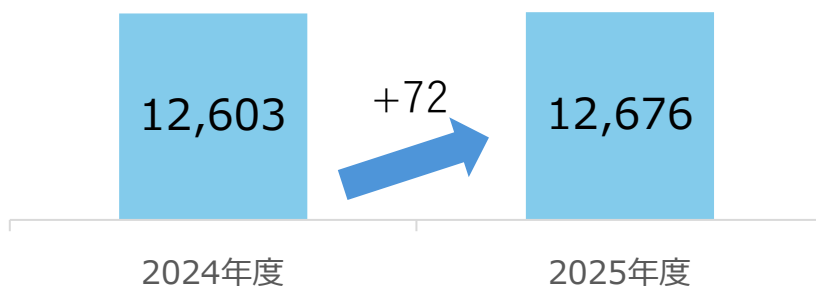
- ・ 医農薬中間体の販売減少
- ・ 樹脂原料の販売増加

機能材事業



- ・ ゴム薬品の販売減少

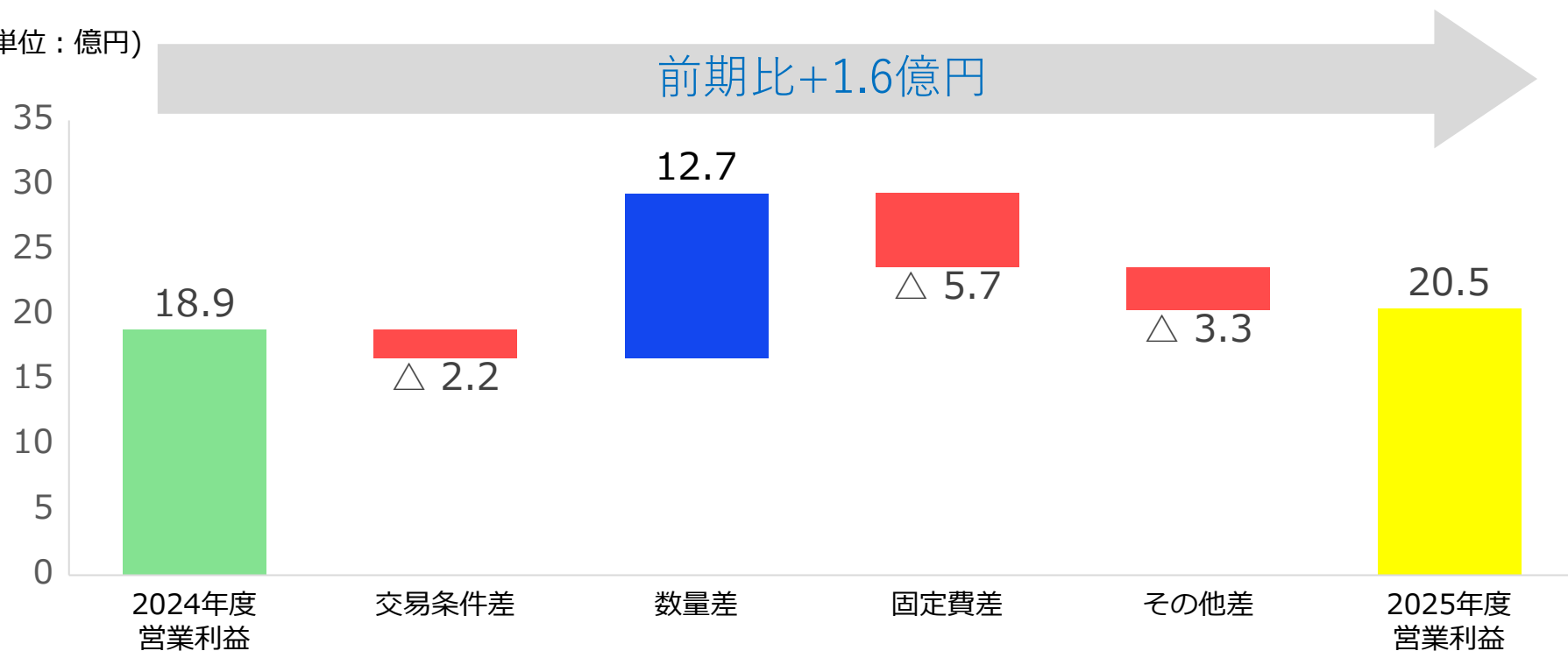
樹脂添加剤事業



- ・ 可塑剤の販売増加

営業利益対前期変動要因分析

(単位：億円)



交易条件差 : 全般的な交易条件の悪化

数量差 : 樹脂原料の増加

固定費差 : 償却費増加（新多目的プラント稼働開始）、労務費等増加

その他差 : 前期在庫の流れ込み等

連結貸借対照表

(単位：百万円)

| | 25.3末 | 26.3末 | 増減 | | 25.3末 | 26.3末 | 増減 |
|------|--------|---------------|-------|---------|--------|---------------|-------|
| 流動資産 | 16,226 | 17,360 | 1,134 | 負債 | 11,908 | 11,378 | △530 |
| 売上債権 | 5,590 | 6,156 | 567 | 仕入債務 | 4,951 | 5,241 | 291 |
| 棚卸資産 | 7,340 | 7,924 | 584 | 借入金 | 1,490 | 870 | △620 |
| その他 | 3,297 | 3,280 | △17 | その他負債 | 5,468 | 5,266 | △201 |
| 固定資産 | 14,181 | 13,567 | △614 | 純資産 | 18,499 | 19,550 | 1,051 |
| 資産合計 | 30,407 | 30,928 | 520 | 負債純資産合計 | 30,407 | 30,928 | 520 |
| | | | | 自己資本比率 | 60.8% | 63.2% | 2.4% |

連結キャッシュ・フロー

(単位：百万円)

| | 2024年度 | 2025年度 | 増減 |
|----------------|--------|--------|--------|
| 営業キャッシュ・フロー | 4,371 | 2,059 | △2,312 |
| 投資キャッシュ・フロー | △1,418 | △925 | 493 |
| フリー・キャッシュ・フロー | 2,953 | 1,134 | △1,820 |
| 財務キャッシュ・フロー | △997 | △1,219 | △223 |
| その他 | 53 | 40 | △12 |
| 現金及び現金同等物の増減 | 2,010 | △45 | △2,055 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 2,982 | 2,937 | △45 |

3. 2026年度見通し：業績予想

(単位：百万円)

| | 2025年度 | 2026年度 予想 | 増 減 |
|-------------|--------|---------------|--------|
| 売上高 | 33,192 | 35,000 | 1,808 |
| 営業利益 | 2,046 | 320 | △1,726 |
| 経常利益 | 2,096 | 350 | △1,746 |
| 当期純利益 | 1,533 | 250 | △1,283 |
| 配当(円/株) | 36円 | 6円 | △30円 |
| 為替レート(円/\$) | 151.09 | 150.00 | △1.09 |

売上高

- + 農薬中間体等の販売増加
- 樹脂原料の出荷減少

営業利益

- 樹脂原料の顧客の在庫調整による出荷減少
- 労務費などの固定費の増加

2026年度見通し：セグメント別売上高

(単位：百万円)

| | 2025年度 | 2026年度 予想 | 増 減 | |
|-------------------|--------|---------------|-------|-----------------|
| 化学工業セグメント 計 | 32,632 | 34,450 | 1,818 | |
| 精密化学品事業 | 16,535 | 18,000 | 1,465 | 樹脂原料減少も農薬中間体の増収 |
| 機能材事業 | 3,422 | 3,450 | 28 | |
| 樹脂添加剤事業 | 12,676 | 13,000 | 324 | |
| 化学分析受託事業 セグメント | 560 | 550 | △10 | |
| 合計 | 33,192 | 35,000 | 1,808 | |

2026年度損益見通し

営業利益 25年度2,046百万円→26年度320百万円

事業環境

- 当社主力事業である樹脂原料は前年度後半から出荷が減少している。25年度生産分の在庫調整の影響もあり、26年度の業績は昨年に比べ大幅に悪化する見通し
- イラン情勢を中心とした国際的な混乱により、将来の不確実性が高まっており、足元では原料価格が高騰し、一部原料には供給制限もあり（26年5月現在）

業績改善に向けた取り組み

- ✓ 新規開発品、受託製品の早期導入、工場稼働率の向上
- ✓ 原料価格上昇、供給制限を強いられる中で、顧客需要への影響を最小限に抑制する最適生産の維持
 - 一部原料による供給の制約はあるが影響は限定的
- ✓ 原料他、コスト上昇に対応し、タイムリーな製品価格是正を実施

樹脂原料の市場環境変化と今後の対応策

当社樹脂原料と取り巻く市場動向

■ 主要用途(カメラレンズ用)であるスマートフォンの販売動向

世界の販売台数は2024年度12.36億台に対し、2025年度は12.6億台と前年比 1.9%の微増

2026年度は半導体関連部材の不足により生産が減少
販売台数は前年比 12.9%減の11億台 となる見通し (IDC*予想)

- レンズ用樹脂事業における対抗品の市場への参入
- 顧客での販売品目構成がより高機能な方向にシフト
その過渡期における在庫調整が発生
- 一部原材料価格の高騰

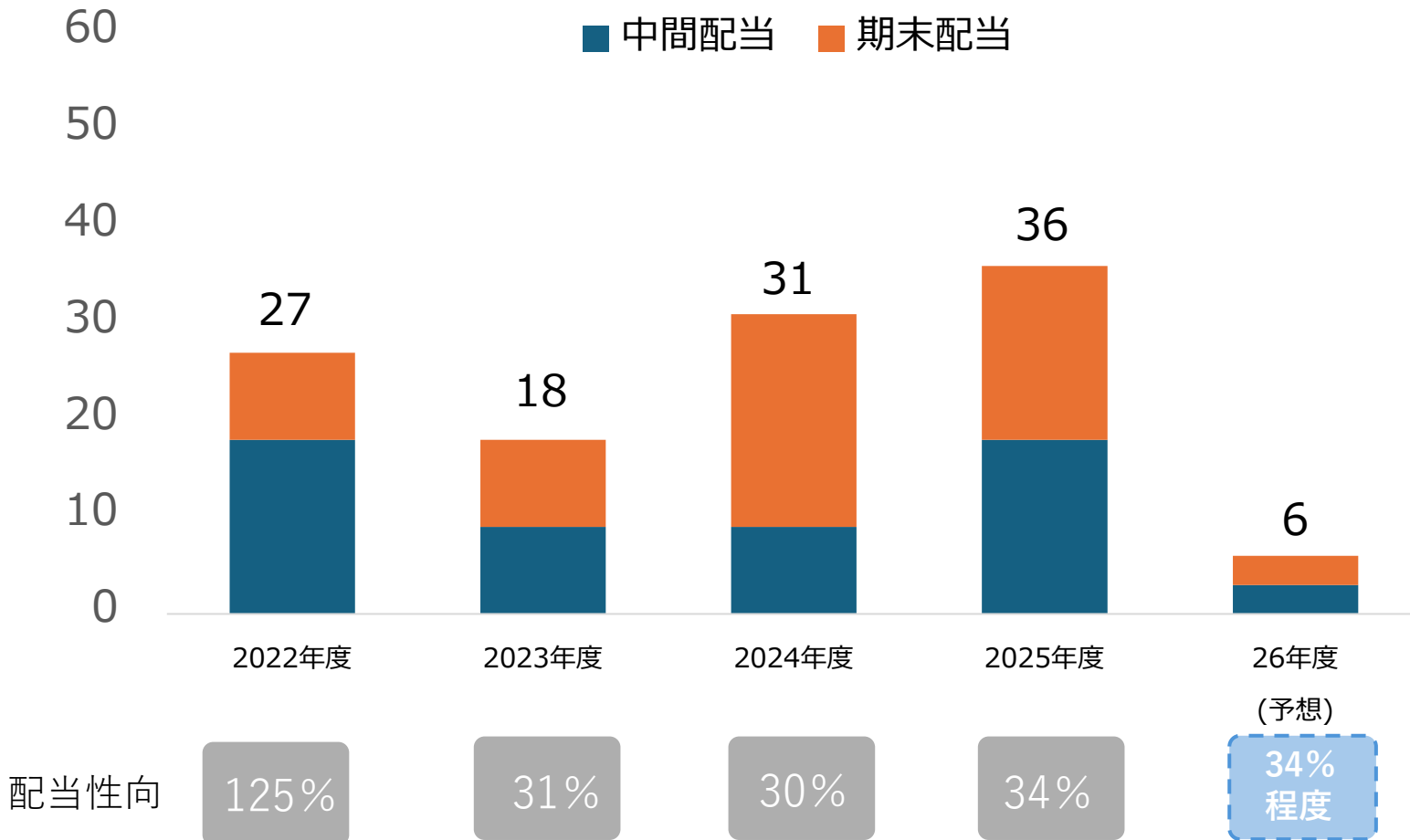
*International Data Corporation (IDC)

具体的な対応策

- ✓ 生産品目の高付加価値新製品へのスムーズなシフト
- ✓ 生産性向上や製法の変更等、更なる合理化による徹底的なコスト競争力の強化
- ✓ 顧客需要に対応した各機動工場の最適生産体制の構築

配当実績推移及び配当予想

(円)



質疑応答

ご質問方法

「挙手」ボタンをクリックください。順次ご指名します。

(ご質問終了後「手をおろす」をクリックください。)

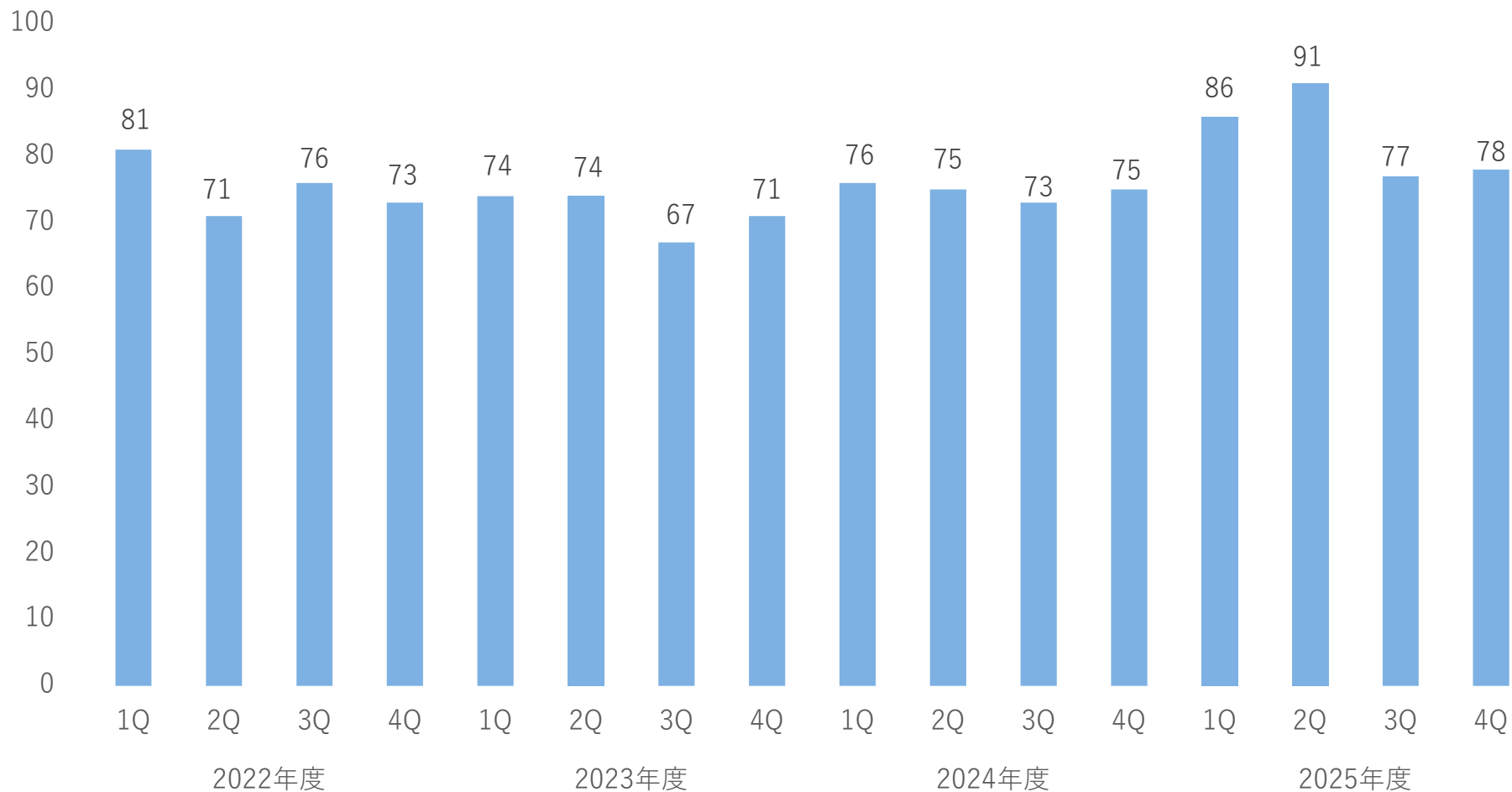
もしくは、Q&Aボタンにて質問を入力ください。

(Q&Aボタンは「詳細」内にある場合もございます)

※質疑応答要旨作成のため文字起こしをさせていただきます。

Appendix 四半期売上高推移

(単位:億円)



四半期営業利益推移

(単位:百万円)

